



# 京大広報

No. 721

2016.4



平成27年度京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式を挙行 一関連記事 本文4617ページ

## 目次

高大接続について－ELCASと特色入試  
教育改革担当副学長 有賀 哲也……4610

〈大学の動き〉

- 監事が発令される……4612
- 副理事が発令される……4612
- 理事補が発令される……4612
- 部局長の交代等……4612
- 新たな学生支援制度SPECを実施……4615
- 平成28年度学部入試の結果……4616
- 平成27年度京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式を挙行……4617

〈寸言〉

- 学生の皆様への応援メッセージ  
星谷 哲男……4618

〈随想〉

- 歩く街、京都 名誉教授 小林 正美……4619

〈洛書〉  
フランス  
仏哲学から仏教学への道  
Marc-Henri DEROCHE……4620

〈栄誉〉

- 森 和俊 理学研究科教授が日本学士院賞・恩賜賞を、西田栄介 生命科学研究所教授、北川 進 物質-細胞統合システム拠点長、河内良弘 名誉教授が日本学士院賞を受賞……4621

〈話題〉

- 舞鶴水産実験所 海洋教育研究船「緑洋丸」のお披露目式を実施……4623
- 学術情報メディアセンターの二つの計算機が「情報処理技術遺産」に認定……4624

## 巻頭言

## 高大接続について — ELCAS と特色入試

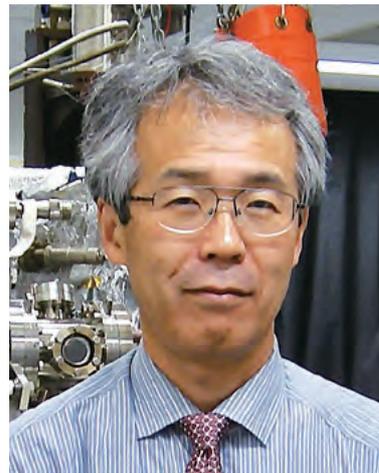
教育改革担当副学長 有賀 哲也

ELCASをご存じだろうか。京都大学が開講している高校生のための体験型科学講座である。百数十人の高校生が隔週の土曜日午後、本学にやってくる。理科系のさまざまな分野の講義を聴く。数人ずつのグループで学内各所の研究室に分かれ、実験やプログラミングに取り組む。難しい数学書と格闘したり、フィールドに出て観察、実習に取り組む者もいる。高校生の能力を超えたことはしないが、高校の教室では得られない達成感を体験してもらいたいと思っている。手弁当の教員の方々が、TAの大学院生とともにコースを担当してくださっている。半年の講座の最後には成果発表会でおおいに盛り上がる。さらにそのうちの30人ほどは専修コースに進み、ほぼマンツーマンの指導のもとで、より探求的な課題に取り組む。

週末の貴重な時間を割いてコースを担当して頂いている教員の方々には頭が下がる思いであるが、「生き活きとした高校生と接することができて楽しかった」、「こんな優秀な生徒には是非とも自分の研究室に来て貰いたい」、等の感想を聞かせていただく嬉しくなる。

幼少期から受験勉強に励んできた高校生がいる一方で、小学生の時に科学センターや「青少年のための科学の祭典」に通い、中学では理科部で実験に夢中になり、高校ではスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の探究活動に喜々として取り組む高校生がいる。SSH事業については、本学からもきわめて多数の教員が協力されている。いろいろな課題もあろうが、高校教員の方からは、SSHは高校教員の意識を変えた、高校全体を変えたと聞くことも多い。多様な科学コンテスト等も開かれるなかで、少なくとも一部の高校生の意識は変わってきている。ELCASに集まっているのは、偏差値に要約された「京都大学」ではなく、本学における具体的な研究活動に関心をもつ高校生達なのだと思う。

ELCASは、一昨年から科学技術振興機構(JST)

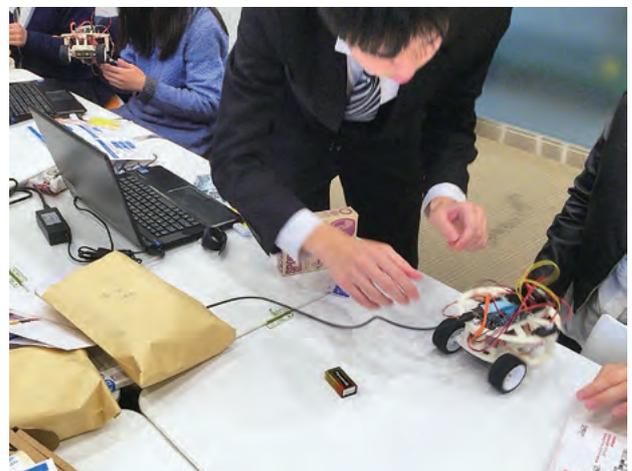


の受託を受けた全学事業として行われている。前身となった事業は8年前に理学研究科において受講生30人規模で始まった。これまでの修了生の約1/3が本学(理系5学部を含む7学部)に入学

している。そのほかの多くも研究型大学に進んでいる。先だっても、半年前まで専修コースにいた受講生たちが本学の特色入試合格者として新聞で紹介されているのを見て嬉しく思った。知的意欲に溢れる高校生を励まし、背中を押してやることができると思う。また、女子比率も、本学理工系学部とは異なり自然界の比率に近い。実習でも発表会でもおおいに活躍している。

受講生は、本学が協定を結んでいる12の教育委員会から推薦を受けた80名と、一般公募からの50名からなる。一般公募には近畿一円、さらには北陸、四国、東海など各地から300名近い応募者があり、独自の方法で選抜を行っている。他大学においても類似事業が行われるようになった中で、一段と高い認知度を得ていると思う。

出前授業やオープンキャンパスのような高大連携事業は従来から行われてきた。高校生に大学進学へ



ELCAS「聴覚ロボット」分野の実習風景。3Dプリンタ等を使ってロボットを製作する。プログラミングもすべて自力で頑張る。

の意識を高めてもらうことなどを目的として大勢の高校生を対象としているが、その反面、効果を実感しにくいところがある。ELCASは入試を意識したものでないという点では、オープンキャンパスに類した高大連携事業の一つと言える。しかも規模ははるかに小さい。しかし、教員が自ら個々の高校生の意欲や実践的な能力を確認することができ、彼らの成長を見て手応えを実感できる。規模の小ささは厳しい選抜を経ていることの裏返しでもある。

課題もある。一つは、受講生の意欲、能力等の評価である。ELCAS各コースにおいて個々の受講生の活動、能力、意欲を正当に評価し、それにより受講生自身がさらに成長する糧とできるよう、本人にフィードバックしたいと考えている。

我が国では18歳人口の減少が著しい。団塊ジュニア世代にあたる現在40台前半の方々が大学受験の頃、18歳人口は200万人だった。ここ数年の大学入学者は団塊の孫世代に相当するが、18歳人口はほぼ120万人、団塊ジュニアの6割にまで減少した。さらに、来年あたりからは年1.5万人のペースでずっと(少なくとも今後18年に渡って!)減少し続ける見込みである。そのような中で、いかにして意欲と才能にあふれた学生を集めるか。本学の将来のためにきわめて重要な課題である。

今年度から京都大学特色入試が始まった。フィールドワーク姿の山極総長が「意欲買います」と呼びかけるポスターを目にされた方も多いと思う。大学の学問に対する高い意欲と尖った才能とを備えた志願者に対して、一般入試とは別に入学の途を開いた。意欲と能力をいかにバランスよく判定するかという観点から各学部で選抜方法が工夫され、着実な一歩を踏み出した。

特色入試は本学の全入学定員のうち数%に過ぎないし、今後も一般試験の代替になるようなものではない。しかし、本学が、学生の意欲を尊重し、学生同士あるいは学生対教員の対話を通して自発的に学問に取り組む場所であることを、若者にまた社会に知らしめるという意味において重要な役割を担っている。

幼少期から受験を意識した生活を送ってきた学生

は大学入学後に息切れする傾向があることを示唆する調査結果がある。特色入試は、そのような「間違えた」風潮に対するメッセージになってほしいと思う。ELCASもまた、意欲と才能を備えた高校生たちが受験勉強で屈折してしまうことなく、自由な大学の学問へと進んで行く道筋を示す役割を果たしている。より健全な高大接続へ向けてこれらの取組が役立てばと願っている。

ELCASは今後も継続することを目指しているが、現在、大きな課題がある。これまでの取組で、理科系志望の意欲ある高校生には、その意欲を受け止めてやることできるようになってきた。一方で文科系はどうか。文科の学問に強い意欲、興味を持ちながら、その意欲の「はけ口」が書物以外にないという高校生たちがいる。そのような高校生に広大な文科の学問の世界を覗き見させてやることには大きな意味があるはずだ。たとえば、あらかじめ各自が資料を読み込んだうえで、自由な討論を通して理解を深め、新しい発見をすることは、そのような高校生にとってきわめて刺激的な体験になるだろう。ぜひともELCASを文科系にも展開したいと考えている。



ELCAS「宇宙地球」分野の実習風景。分光データから太陽の自転速度を決定する。写真はシーロスタットの望遠鏡の第一鏡の調整を行っているところ。

## 大学の動き

### 監事が発令される

監事が4月1日付けで文部科学大臣から任命された。任期は平成32年8月31日まで。

#### ◆監事(新任)



東島 清

#### ◆監事(再任)※非常勤



丸本 卓哉

### 副理事が発令される

北村隆行工学研究科教授が副理事(桂キャンパス担当)に4月1日付けで任命された。任期は平成28年9月30日まで。



北村 隆行(新任)

### 理事補が発令される

【任期：平成28年4月1日～平成28年9月30日】  
 広報担当 桑原知子 教育学研究科教授 (新任)  
 研究担当 佐治英郎 薬学研究科教授 (新任)

### 部局長の交替等

(新任)

#### 教育学研究科長・教育学部長

高見 茂 教育学研究科教授(教育科学専攻比較教育政策学講座担当(教育資源配分と公共政策))が、子安増生 教育学研究科長・教育学部長の後任として、4月1日付けで選出された。任期は平成29年3月31日まで。



#### 経済学研究科長・経済学部長

文 世一 経済学研究科教授(経済学専攻(都市経済学, 交通経済学))が、岩本武和 経済学研究科長・経済学部長の後任として、4月1日付けで選出された。任期は平成30年3月31日まで。



**薬学研究科長・薬学部長**

中山和久 薬学研究科教授(薬科学専攻生体情報薬学講座担当(分子細胞生物学))が、高倉喜信 薬学研究科長・薬学部長の後任として、4月1日付けで選出された。任期は平成30年3月31日まで。

**工学研究科長・工学部長**

北村隆行 工学研究科教授(機械理工学専攻物性工学講座担当(材料物性学))が、伊藤伸三郎 工学研究科長・工学部長の後任として、4月1日付けで選出された。任期は平成30年3月31日まで。

**人間・環境学研究科長・総合人間学部長**

杉山雅人 人間・環境学研究科教授(相関環境学専攻自然環境動態論講座担当(分析化学・水圏化学))が、高橋由典 人間・環境学研究科長・総合人間学部長の後任として、4月1日付けで選出された。任期は平成30年3月31日まで。

**アジア・アフリカ地域研究研究科長**

太田 至 アジア・アフリカ地域研究研究科教授(アフリカ地域研究専攻地域動態論講座担当(アフリカ地域研究,人類学))が、小杉 泰 アジア・アフリカ地域研究研究科長の後任として、4月1日付けで選出された。任期は平成30年3月31日まで。

**地球環境学堂長・地球環境学舎長**

舟川晋也 地球環境学堂教授(陸域生態系管理論分野担当(環境農学・土壌学))が、藤井滋穂 地球環境学堂長・地球環境学舎長の後任として、4月1日付けで選出された。任期は平成30年3月31日まで。

**公共政策連携研究部長・公共政策教育部長**

中西 寛 公共政策連携研究部教授(公共政策第一講座(国際政治学))が、新川敏光 公共政策連携研究部長・公共政策教育部長の後任として、4月1日付けで選出された。任期は平成30年3月31日まで。

**経営管理研究部長・経営管理教育部長**

若林靖永 経営管理研究部教授(経営管理講座担当(マーケティング・流通・商業,クリティカルシンキング))が、河野広隆 経営管理研究部長・経営管理教育部長の後任として、4月1日付けで選出された。任期は平成30年3月31日まで。

**生存圏研究所長**

渡邊隆司 生存圏研究所教授(生存圏診断統御研究系バイオマス変換分野担当(バイオマス変換))が、津田敏隆 生存圏研究所長の後任として、4月1日付けで選出された。任期は平成30年3月31日まで。

**経済研究所長**

岡田 章 経済研究所教授(経済制度研究部門担当(ゲーム理論))が、溝端佐登史 経済研究所長の後任として、4月1日付けで選出された。任期は平成30年3月31日まで。

**霊長類研究所長**

湯本貴和 霊長類研究所教授(社会生態研究部門担当(保全生態学))が、平井啓久 霊長類研究所長の後任として、4月1日付けで選出された。任期は平成30年3月31日まで。



**学術情報メディアセンター長**

中村裕一 学術情報メディアセンター教授(教育支援システム研究部門担当(情報メディア工学))が、岡部寿男 学術情報メディアセンター長の後任として、4月1日付けで選出された。任期は平成30年3月31日まで。

**アフリカ地域研究資料センター長**

重田眞義 アジア・アフリカ地域研究研究科教授(アフリカ地域研究専攻地域動態論講座担当(アフリカ研究))が、梶 茂樹 アフリカ地域研究資料センター長の後任として、4月1日付けで選出された。任期は平成30年3月31日まで。

**高等研究院長**

森 重文 高等研究院特定教授(代数幾何学)が、4月1日付けで指名された。任期は平成30年3月31日まで。



(再任)

**文学研究科長・文学部長**

平田昌司 文学研究科教授(文献文化学専攻中国語学・中国文学講座担当(中国語学・近代中国))が、4月1日付けで文学研究科長・文学部長に再任された。任期は平成30年3月31日まで。

**ウイルス研究所長**

小柳義夫 ウイルス研究所附属ヒトレトロウイルス研究施設教授(ウイルス学)が、4月1日付けでウイルス研究所長に再任された。任期は平成30年3月31日まで。

**東南アジア研究所長**

河野泰之 東南アジア研究所教授(統合地域研究研究部門担当(土地資源, 水資源, 生業転換, 持続型生存基盤))が、4月1日付けで東南アジア研究所長に再任された。任期は平成30年3月31日まで。

**学際融合教育研究推進センター長**

中村佳正 情報学研究科教授(数理工学専攻応用数学講座担当(応用数学))が、4月1日付けで学際融合教育研究推進センター長に再任された。任期は平成30年3月31日まで。

**文化財総合研究センター長**

吉川真司 文学研究科教授(歴史文化学専攻日本史学講座担当(日本古代史))が、4月1日付けで文化財総合研究センター長に再任された。任期は平成30年3月31日まで。

**エネルギー科学研究科長**

塩路昌宏 エネルギー科学研究科教授(エネルギー変換システム学講座担当(熱工学))が、4月1日付けでエネルギー科学研究科長に再任された。任期は平成29年3月31日まで。

**数理解析研究所長**

向井 茂 数理解析研究所教授(無限解析研究部門担当(代数幾何学))が、4月1日付けで数理解析研究所長に再任された。任期は平成29年3月31日まで。

**iPS細胞研究所長**

山中伸弥 iPS細胞研究所教授(未来生命科学開拓部門担当(幹細胞生物学))が、4月1日付けでiPS細胞研究所長に再任された。任期は平成30年3月31日まで。

**高等教育研究開発推進センター長**

飯吉 透 高等教育研究開発推進センター教授(高等教育教授システム研究開発部門担当(教育イノベーション・高等教育システム))が、4月1日付けで高等教育研究開発推進センター長に再任された。任期は平成30年3月31日まで。

**白眉センター長**

光山正雄 総合生存学館特定教授(微生物感染症学)が、4月1日付けで白眉センター長に再任された。任期は平成29年3月31日まで。

### 地域研究統合情報センター長

原 正一郎 地域研究統合情報センター教授(高次情報処理研究部門担当(情報学))が、4月1日付けで地域研究統合情報センター長に再任された。任期は平成30年3月31日まで。

### 新たな学生支援制度 SPEC を実施

平成27年秋より京大生チャレンジコンテスト、通称SPEC(Student Projects for Enhancing)がスタートした。京大生らしい既存の価値観を超えた独創的なプロジェクトに対し、京都大学基金が寄附を募って学生に助成金として支給する、新たな取り組みである。山極壽一総長が打ち出す「WINDOW構想」に基づき、学生の創造力や実践力を磨くとともに、学生の挑戦をアピールし企業や社会との交流拡大を図ることが狙い。

第1回となる平成27年度は26件の応募の中から、6件のプロジェクトが採択された。1月20日(水)には「SPEC採択発表会」を開催。採択学生たちが「自分たちの取り組みはここがスゴイ!」、「目指すは世界大会1位!」と熱くプレゼンした。

当日は、選考委員長を務めた川添信介 学生担当理事・副学長、来賓の義本博司 文部科学省大臣官房審議官(高等教育局担当)より挨拶があり、最後に山極総長が各プロジェクトの寸評を行い、「京都大



採択発表会にて学生と山極総長、義本審議官(3列目中央)ら学の“おもろさ”を広めてほしい」とエールを贈った。

寄附募集は、京都大学基金ホームページ内の「SPEC特設サイト」にて、クラウドファンディングの仕組みを活用して行った。3月15日(火)をもって寄附募集は終了したが、今後、プロジェクト進捗状況は京都大学のホームページで随時リポートしていく予定である。

#### 採択プロジェクト概要

腸管クリーナー開発で世界進出 iGEMKyoto 2016 (代表)工学部1年 道盛 裕太 今までにないアプローチによる腸管内ノロウイルス除去システムを開発し、合成生物学世界大会での上位入賞を目指す	無音ストローの開発 Project Straw (代表)理学部1年 高橋 晃太郎 ストローから出るあの嫌な音、科学の力で消してしましましょう!	未来の医師のための グローバルヘルス・スタディツアー 京都大学医学教育を考える学生の会(KS-CoM) (代表)医学部4年 池尻 達紀 医学生発の「スタディツアー」でグローバルヘルスに貢献できる日本人医師の増加を目指します!
<b>【獲得金額】</b> 500,000円	<b>【獲得金額】</b> 500,000円	<b>【獲得金額】</b> 391,000円
マングローブスズが持つ概潮汐リズムの生理学的アプローチによる解明 理学部4年 左倉 和喜 マングローブに棲む鳴かないコオロギを用い、体内時計研究の新たな切り口となる「概潮汐時計」に挑戦!	にしあわくら・みんなのKENKYUJO 人間・環境学研究科修士1年 飯島 千咲 人口わずか1,519人。岡山県西粟倉村に、ワクとカキネを越えて世界中から人が集まるKENKYUJOをみんなで作りたい!	ナノ爆薬による1細胞手術 ー新しい薬物輸送法の確立 理学研究科修士1年 延山 知弘 細胞内で爆発性分子をレーザー起爆し、脂質膜を「切開」、さらに外部分子を細胞内に「移植」します
<b>【獲得金額】</b> 445,000円	<b>【獲得金額】</b> 395,500円	<b>【獲得金額】</b> 410,000円

※学年はSPEC応募時のもの。

(総務部(渉外課))

## 平成28年度学部入試の結果

入試区分・学部・学科別の受験者数，合格者数，入学者数は次表のとおりである。

### 平成28年度一般入試等の結果

学 部	募集人員 (A)	受入予定数 (目安)	志願者数 (B)	倍率 (B/A)	第1段階 選抜合格者数	受験者数 (C)	倍率 (C/A)	欠席者数	欠席率	合格者数	辞退者数	追加合格者数	入学者数
総合人間学部	115 <sup>人</sup>		518 <sup>人</sup>	4.5 <sup>倍</sup>	404 <sup>人</sup>	398 <sup>人</sup>	3.5 <sup>倍</sup>	6 <sup>人</sup>	1.5%	119 <sup>人</sup>	0 <sup>人</sup>	0 <sup>人</sup>	119 <sup>人</sup>
前期													
文系	62		283	4.6	217	215	3.5	2	0.9	65	0	0	65
理系	53		235	4.4	187	183	3.5	4	2.1	54	0	0	54
文学部	213		614	2.9	614	600	2.8	14	2.3	216	0	0	216
前期													
教育学部	55		183	3.3	183	178	3.2	5	2.7	57	0	0	57
前期													
文系	45		144	3.2	144	142	3.2	2	1.4	47	0	0	47
理系	10		39	3.9	39	36	3.6	3	7.7	10	0	0	10
法学部	300		821	2.7	821	805	2.7	16	1.9	312	0	0	312
前期													
経済学部	205		610	3.0	610	592	2.9	18	3.0	215	0	0	215
前期													
文系	180		478	2.7	478	464	2.6	14	2.9	190	0	0	190
理系	25		132	5.3	132	128	5.1	4	3.0	25	0	0	25
理学部	306		845	2.8	832	829	2.7	3	0.4	310	0	0	310
前期													
医学部	244		621	2.5	605	590	2.4	15	2.5	260	9	2	253
前期													
医学科	106		330	3.1	314	311	2.9	3	1.0	112	1	0	111
人間健康科学科	138		291	2.1	291	279	2.0	12	4.1	148	8	2	142
看護学専攻	69		137	2.0	137	134	1.9	3	2.2	73	6	2	69
検査技術科学専攻	37		87	2.4	87	85	2.3	2	2.3	39	0	0	39
理学療法専攻	16		41	2.6	41	37	2.3	4	9.8	18	0	0	18
作業療法専攻	16		26	1.6	26	23	1.4	3	11.5	18	2	0	16
薬学部	80		218	2.7	218	208	2.6	10	4.6	84	0	0	84
前期													
薬科学科	50		132	2.6	132	129	2.6	3	2.3	53	0	0	53
薬学科	30		86	2.9	86	79	2.6	7	8.1	31	0	0	31
工学部	951		2,732	2.9	2,731	2,688	2.8	43	1.6	945	4	0	941
前期													
地球工学科		185	342	1.8	342	-	-	-	-	173	1	0	172
建築学科		80	312	3.9	312	-	-	-	-	81	0	0	81
物理工学科		235	822	3.5	822	-	-	-	-	236	1	0	235
電気電子工学科		127	359	2.8	359	-	-	-	-	128	1	0	127
情報学科		89	339	3.8	339	-	-	-	-	90	0	0	90
工業化学科		235	558	2.4	557	-	-	-	-	237	1	0	236
農学部	297		867	2.9	867	858	2.9	9	1.0	310	0	0	310
前期													
資源生物科学科		94	-	-	-	-	-	-	-	96	0	0	96
応用生命科学科		47	-	-	-	-	-	-	-	49	0	0	49
地域環境工学科		37	-	-	-	-	-	-	-	40	0	0	40
食料・環境経済学科		29	-	-	-	-	-	-	-	31	0	0	31
森林科学科		57	-	-	-	-	-	-	-	59	0	0	59
食品生物科学科		33	-	-	-	-	-	-	-	35	0	0	35
計	2,766		8,029	2.9	7,885	7,746	2.8	139	1.8	2,828	13	2	2,817

※工学部の学科別志願者数および第1段階選抜合格者数は，第1志望学科の数を示す。  
 ※工学部地球工学科の入学者は，外国人留学生を対象とした国際コースの入学者13人を除く。

### [外国学校出身者のための選考の実施結果 (外数)]

学 部	募集人員 (A)	志願者数 (B)	倍率 (B/A)	第1次選考 合格者数	受験者数 (C)	倍率 (C/A)	欠席者数	欠席率	合格者数	辞退者数	入学者数
法学部	10 <sup>人(以内)</sup>	21 <sup>人</sup>	2.1	17 <sup>人</sup>	8 <sup>人</sup>	0.8	9 <sup>人</sup>	52.9%	4 <sup>人</sup>	0 <sup>人</sup>	4 <sup>人</sup>
経済学部	10	22	2.2	16	5	0.5	11	68.8	5	0	5

※受験者数・欠席率は最終教科時における数字である。

平成28年度特色入試の結果

学部・学科・専攻		募集人員	志願者数	倍率	第1次選考合格者数	第2次選考受験者数	欠席者数	第2次選考合格者数	最終選考合格者数	辞退者数	入学者数	
総合人間学部		5 <sup>人</sup>	29 <sup>人</sup>	5.8 <sup>倍</sup>	29 <sup>人</sup>	29 <sup>人</sup>	0 <sup>人</sup>	— <sup>人</sup>	5 <sup>人</sup>	0 <sup>人</sup>	5 <sup>人</sup>	
文学部		10	40	4	9	9	0	—	7	0	7	
教育学部		6	25	4.2	12	12	0	7	5	0	5	
法学部	(後期日程)	20	324	16.2	324	130	194	—	22	1	21	
経済学部		25	77	3.1	61	60	1	—	25	0	25	
理学部		5	59	11.8	59	59	0	5	5	0	5	
医学部	医学科	5	5	1	5	5	0	—	1	0	1	
	人間健康科学科	看護学専攻	10	13	1.3	13	13	0	10	1	0	1
		理学療法専攻	3	7	2.3	7	6	1	4	2	0	2
		作業療法専攻	3	2	0.7	2	2	0	2	2	0	2
薬学部	薬科学科	3	2	0.7	2	2	0	2	0	0	0	
工学部	地球工学科	3	0	—	—	—	—	—	0	0	0	
	電気電子工学科	5	12	2.4	—	—	—	—	3	0	3	
	情報工学科	2	1	0.5	1	1	0	1	1	0	1	
	工業化学科	若干	0	—	—	—	—	—	0	0	0	
農学部	食料・環境経済学科	3	20	6.7	10	10	0	—	3	0	3	
計		108	616	5.7	534	338	196	31	82	1	81	

(教育推進・学生支援部(入試企画課))

平成27年度京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)表彰式を挙

優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰する制度である、京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)の第8回の表彰式を、3月3日(木)に開催した。

表彰式は、最初に選考委員長である 稲葉 カヨ 男女共同参画担当理事・副学長より、選考経緯に関する報告を交えた開会の挨拶があり、引き続き、たちばな賞学生部門受賞者の田辺 弘子氏(人間・環境学研究科博士課程3回生)、研究者部門受賞者の井上恵美子氏(経済学研究科講師)に、山極壽一 総長より、それぞれ表彰状と記念楯が授与された。続いて、副賞の「ワコール賞」が、安原弘展 ワコール株式会社代表取締役社長から贈呈された。また、優

秀女性研究者奨励賞学生部門受賞者の信川久実子氏(理学研究科博士課程3回生)にも、同じく山極総長より表彰状が、また安原社長より副賞が贈呈された。

その後、山極総長から、受賞者への祝福の言葉とさらなる活躍を期待するエールが送られ、また、安原社長から、受賞者への祝辞が述べられた。

引き続いて、出席者全員による懇談が行われ、受賞者それぞれの研究成果や今後の目標等の会話がなされ、大いに盛り上がった。

最後に、川添信介 学生担当理事・副学長より、閉会の挨拶があり、盛況のうちに表彰式と研究発表を閉幕した。



左から、山極総長とたちばな賞学生部門受賞者の田辺氏、研究者部門受賞者の井上氏、安原社長



左から、山極総長と優秀女性研究者奨励賞学生部門受賞者の信川氏、安原社長(総務部(人事課))

## 寸言

## 学生の皆様への応援メッセージ

星谷 哲男



学窓を離れ、はや33年となりました。しかし、自分の4年間の京大生活では、いまでも数多くの記憶が鮮明に残っています。おそらく多くの京大生がそうであるように、私も自由な校風に憧れ入学しました。親しみやすい先生方、個性豊かな友人たちに恵まれ、予想以上に充実した学生生活を送ることができ、人間形成にも大きな影響がありました。また、社会に出ても思いもよらぬ所で同窓ということから、多くの知己を得られ、刺激を受けたことも多々ございました。私は法学部を1983年に卒業後、日本興業銀行(現みずほ銀行)に入行して以来、シティバンク、オランダのアイエヌジー銀行と、一貫して金融分野に身をおいています。金融の本質について語るほどこの世界を極めておりませんし、アカデミックなお話でもできませんので、学生さんへのメッセージを、以下2点述べます。

第一は、学生時代に本質的な思考、論理的思考、複眼思考に慣れ親しむことです。最近新卒採用の企業が京大生を高く評価していることがメディアで取り上げられていますが、これは会社が期待するブレークスルー、型破りな発想、変化への適応力といったことが京大生は比較的身につけているという意味かと理解しております。インターネットの普及により情報収集は迅速且つ簡単にできるようになりましたが、自分の頭でじっくり考えるということが疎かになっている気がします。また、白黒、善悪といった二元論ではなく、多層、多元的な議論がきちんとできることも重要かと思えます。学生時代にいろいろな価値観をもった友人たちと種々の問題について、ディスカッションやディバードすることや、大学生の教養として読むべき書物を、時間をかけてじっくり読むということも、よい訓練になるかと思えます。日本の会社ではともすると協調性を強く求められま

すが同質性の高い組織は、外的な環境変化に弱いので、自分の頭でしっかりものを考える京大生の活躍の場はますます広がっていくと思います。

第二は国際感覚を身につけるということです。私の学生時代から日本の国際化の必要性は叫ばれていましたが、当時の国際化はプラザ合意後の円高局面の中で、海外資産を買うことに主眼がありました。依然として日本の経済構造は輸出中心で、国内はあくまで日本の論理がベースとなり、人の交流など実質的な国際化は限定的でした。しかし、リーマンショック以降の円高により、生産拠点の海外移転、少子高齢化による人手不足が深刻化する中で、国内でも外国人に接する機会が格段に増加しました。また、留学生、観光客の飛躍的な増加は言うまでもありません。こうした大きなトレンドは今後も継続し、日本のグローバル企業では外国人社員と働くことが当たり前のことになると思います。インターナショナルダイバーシティを理解するためには、海外留学、生活経験が最適です。現在は、様々な留学制度、支援プログラムがありますから、多くの皆様が体験されることを期待します。英語が得意でないという方も、英語は巧みにこしたことはありませんが、あくまでコミュニケーション手段としてのセカンドランゲージと割り切って積極的に外国人とコミュニケーションすることに注力してください。場慣れが大切と思い、まずは話してみてください。日本語はハイコンテンツの言語ですから、言葉だけで真意を探ることが難しく、しばしば「行間を読み」となってしまいますが、英語はローコンテンツの世界ですから、口に出して言わなければ分らないということが大前提です。

最も効率のよい投資は教育であるというのは常識になっています。京大で学ぶ皆様がその機会を最大限活用し将来を担う人材になることを期待するとともに、凡人の私に素晴らしい教育の機会を与えてくれた京都大学に感謝し筆をおきます。

(ほしや てつお、アイエヌジー銀行 在日代表、昭和58年、法学部卒業)

## 随想

## 歩く街、京都

京都大学名誉教授 小林 正美



2016年1月11日、新潟空港発午前8時40分の飛行機は、約1時間10分で大阪伊丹空港にランディング。空港から京都駅に直行するシャトルバスは、約55分で八条口に到着。即刻、地下鉄に乗り今出川駅で降りた私は、烏丸通りの西側歩道を早足で南行、午前11時半、御所西の居宅に荷物を下ろす。今日のお昼は寺町今出川上ルの蕎麦屋と決めており、直ぐさま家を出て烏丸通りを折り返し、乾御門から御所に入る。春の桜が美しさを誇る北側の公園・緑地の生垣数ヶ所を通り抜け、石薬師御門から出て寺町を少し北上し、店に入る。新潟の家を出て約4時間、昼前には壁を背にした席に落ち着き、天竺を食す。蕎麦湯をゆっくりと飲み、小さな幸せに感謝。店の前から始まる出町柳商店街のアーケードを通り、河原町今出川の珈琲豆専門店に立ち寄る。豆100グラムを買い、若い女店員がサービスで出してくれる珈琲とクッキーを味わい、ここから大学に行ってみようかなと思う。しかしせっかくの休日で晴天、暫し京都を歩いてみようと思ひ、賀茂大橋の西詰から洪水敷きに下りる。今出川通りの路面から4メートルほど視点が下がると、今まで路上やバスから見ていた川沿いの建物が視界から消える。十分な巾を持つ川面と、丸みを帯びた石で緩やかに覆われた対岸の土手先は、背景の屏風となる東山へと繋がり、京都盆地のゆったりとした揺鉢底の安心感が漂う。川幅も適度に広く、きれいな水が流れ、水深も浅くて酔って落ちてでも溺れない。鴨川は、都の景の背骨である。今出川から丸太町までの道程は、山と川に見惚れ、あっという間であった。丸太町通りで丸太町橋を渡ると、右手に熊野寮がある。寮担当の学生部員であった頃、ここに機動隊が入るという事で、前日に翌朝早くの召集が掛った。「機動隊から学生を守る」が尾池和夫総長の厳命として伝えられ、私らが両者の間に入っての押し競饅頭。

京都大学の先生は“立派なことをするなあ”との、“自画自賛”を思い出す。熊野神社の界隈には、八つ橋の店がある。交差点角の店には行かず、一本北の、聖護院の店に向かう。間口いっぱい張る少し重い硝子の引戸をゆっくりと開け、叩きに入る。誰もいない、と思ったら、「いらっしゃ〜い」との声が暖簾の向こうから聞こえ、売り場の責任者らしい女性が現れて、「どうぞゆっくり見て下さいね」と微笑む。長いガラスのショウケースには色んな八つ橋が並び、「どれがいいですかね〜」との私の問いに、「どうぞ食べ比べてください」と、小さなガラス鉢に入った試供品を指さす。試食後買ったのは、昔ながらの堅い八つ橋ではなく、薄い生の八つ橋を正方形に切り重ねた肉桂味と抹茶味の詰合せ、それと小さなストロー状に焼いた肉桂の八つ橋15本程が、薄い六角形の紺色の紙箱に入ったもの。どちらもオーバーのポケットに丁度入る。店の脇の細い路地を抜け、武徳殿の前で丸太町通りを渡り、平安神宮に行く手前で京都会館に脇から入ると、突然そこは、華やかな着物の姿の女性と、タキシード風の衣装と髪型も個人的に決めた男性の興奮の坩堝<sup>るっぽ</sup>。成人式の祝典を終え、みやこめっせから流れ出た二十歳の男女が数千人、彼らの行き先が決まるまで、京都会館、岡崎公園、美術館、図書館の前は、若い熱気が満ち溢れる。気合いを入れて若者たちを掻き分け、朱色の巨大なコンクリート鳥居を潜り、青蓮院前の坂道を上がる。観光バスで賑わう知恩院前を早足で通り、円山公園に入ると、そこには外国からの観光客。花の無い桜の前の記念撮影を避け、長生館の前から坂道を下りる。八坂神社の南門で左に曲がり、目指すは、石塀小路。狭隘路地の途中にある石柱門を潜り、すれ違う人の横顔をチラリ見る。石畳を右に曲がり、左に曲がり、また右に曲がって立ち止まる。表札を確かめ、木格子の引戸を開け、坪庭に入る。呼吸を整え、10年、20年の時間を越え、呼鈴のない玄関のガラス戸を静かに開ける。京都では、男と女が作り上げた1,200年の都市計画が、今でも活躍する。

(こばやし まさみ 平成25年退職 元地球環境学学堂教授、専門は都市設計学)

## 洛書

フランス

## 仏哲学から仏教学への道

Marc-Henri DEROCHE

フランスにいた頃、私は哲学から、次第に東洋学と仏教学に研究の焦点を移しました。アジアの様々な国、特にチベットやヒマラヤ地域で現地調査をするたびに、その国の人々から、なぜ仏教を研究するのかと訊ねられます。簡潔な理由を述べるのは、容易ではありませんでした。しかし、2008年の京都大学の仏教学専修への留学を機に、高名な指導教授のおかげで、シンプルな答えを日本語の中に見つけたのです。つまり、私の国フランス(仏蘭西)は、「仏国」と呼ばれていたのです。



日本の皆さんの笑いを誘う、単なる語呂合わせのように見えますが、実はこの「縁」にはもっと深い意味があります。日本とフランスの仏教学研究は、1929年作成開始の共同編纂辞書『宝法義林』以来、長きにわたって協力関係を築いてきました。そればかりか、現代フランス哲学をはじめ西洋には、他の伝統との真の哲学的対話を切り開く新たなパラダイムを追求してきた、自己批判的思索が存在しています。

著名なフランス人思想家の一人エドガール・モラン(1921-)は、科学の時代が抱えるパラドックスを巧みに指摘しています。科学的知識と技術が大きく進歩した一方で、我々は専門化し細分化した学問を教え込まれ、それらのつながりを築いてこなかったため、知識の全体像は解けないパズルの様相を呈しています。要するに、(部分として)知れば知るほど、(全体として)より無知になる、というわけです。この認識論的パラドックスは悲惨な結果をもたらします。つまり人間は、途方もない科学技術の力を発展させた反面、その全体的かつ長期的結果については新たな盲目を生み出しているのです。知識の新たなパラダイム、思想の改善、また統合的洞察力の探求

が必要です。その中で「humanities」(人文科学)の貢献は不可欠でしょう。モランは「to save Humanity by realizing it」と表現しています。「Human」(人間)として生存するには、「humane」(人間的/人道的)であるべきなのです。

これを目的として、コレージュ・ド・フランスの前教授であるピエール・アド(1922-2010)は、哲学言説、生の在り方、そして彼が「精神の修練」と呼ぶものの分析を通して、古代西洋哲学を「智慧への愛」(philosophia)として見事に再定義しました。その著書の結論でアドは、アジアの伝統との著しい類似点について特筆し、生の様式としての哲学という古代の理想を再現するためにアジアの伝統を学ぶことを奨励しています。私はこの観点から「アジア哲学」を研究しています。これは、知識に関して驚くべき全体論的モデルを提供しています。特に、言語と現実、主体と客体、そして異次元の経験の関係性について高い見識をもっています。理解を具体化することを提唱し、三段階の智慧の発達に即した全人格、身体と精神、脳と心の教育を促してきました。すなわち、教えを聞き(聞)、その意味を思案し(思)、人生を通じて陶冶する(修)、というものです。特に「修」という概念は、日本の伝統芸能や人間らしさを培う様々な「道」の<sup>どう</sup>良い例です。私にとっては、弓道の修練が人生の原動力となっています。

この文化的遺産にもとづく私の研究を、「学問の木」になぞらえてみましょう。根は、文化財学、史学、古典文献の詳細な解読です。幹は、それらの人類学的・哲学的検討です。枝や実は、学際共同と現代社会への新たな応用です。ここ京都では、西田幾多郎や京都学派などの優れた貢献を直に学ぶことができます。白眉センターを経て思修館に勤務する今、自然の美と千年以上に及ぶ文化を擁する学問の山ともいえる京都大学の真価を実感しています。

(マルク=アンリ・デロッシュ 総合生存学館(思修館)准教授、専門は仏教学、宗教学、哲学)

## 栄誉

### 森 和俊 理学研究科教授が日本学士院賞・恩賜賞を、西田栄介 生命科学研究科教授、北川 進 物質－細胞統合システム拠点長、河内良弘 名誉教授が日本学士院賞を受賞

このたび、森 和俊 理学研究科教授が日本学士院賞・恩賜賞を、西田栄介 生命科学研究科教授、北川 進 物質－細胞統合システム拠点長、河内良弘 名誉教授が日本学士院賞を受賞された。授賞式は、6月に日本学士院で行われる予定である。以下に各氏の略歴、業績等を紹介する。

森 和俊教授は、昭和58年京都大学大学院薬学研究科修士課程修了、昭和60年同大学大学院薬学研究科博士課程退学、同年岐阜薬科大学助手として採用、同62年薬学博士(京都大学)の学位を授与され、その後、平成元年米国テキサス大学博士研究員、同5年株式会社エイチ・エス・ピー研究所副主任研究員、同8年同研究所主任研究員、同11年京都大学大学院生命科学研究科助教授を経て、同15年に同大学大学院理学研究科教授に就任し現在に至っている。

今回の日本学士院賞の受賞題目は「小胞体ストレス応答の発見と解明」である。森教授はホルモンやその受容体などのタンパク質が高次構造(立体的な形)を形成する場である細胞内小器官「小胞体」の恒常性がどのように維持されるか、その仕組み(小胞体ストレス応答の分子機構)を解明した。まず出芽酵母を用いて、小胞体ストレスを感知するセンサー分子IRE1と、その情報を伝える転写因子HAC1を同定し、HAC1 mRNA前駆体がIRE1からの情報をう



けてスプライシングによりHAC1が産生されるという全く新奇な機構によってIRE1とHAC1の間がつながれていることを見いだした。次に哺乳動物小胞体ストレス応答の分子機構を解析し、酵母のIRE1-HAC1経路がIRE1-XBP1経路として保存されている上に、ATF6経路という酵母にはないシグナル伝達経路が存在することを明らかにした。さらに、ATF6経路がマウスとメダカの初期発生過程において必須の役割を果たしていることを証明した。森教授の研究は、小胞体ストレスが関与していると考えられている糖尿病、アルツハイマー病、パーキンソン病などの様々な疾患の発症機構の解明、予防や治療に道を開くものである。

なお、森教授の卓越した業績に対し、これまでも平成17年第4回ワイリー賞、同21年カナダガードナー国際賞、同22年紫綬褒章、同26年ショウ賞、アルバート・ラスカー基礎医学研究賞、同27年トムソン・ロイター引用栄誉賞など、多数の賞が授与されている。

(大学院理学研究科)

西田栄介教授は、昭和51年東京大学理学部を卒業後、同大学大学院理学系研究科に進学、同56年理学博士の学位を授与された。昭和56年4月日本学術振興会奨励研究員、同年6月東京大学理学部助手、平成5年京都大学ウイルス研究所教



授、同9年同大学大学院理学研究科教授を経て、同11年同大学大学院生命科学研究科教授に就任し、同17年4月から同21年3月まで生命科学研究科長を務められ、現在に至っている。

今回の日本学士院賞の受賞題目は「MAPキナーゼ並びに関連シグナル伝達経路の分子機構と機能の解明」である。

西田教授は細胞の増殖や分化を制御するタンパク質リン酸化酵素，MAPキナーゼを発見し，その作用機構，生理作用を明らかにした。

細胞の増殖や分化は，増殖因子，分化因子によって制御されている。すなわち，増殖因子や分化因子の刺激が細胞膜上の受容体を介して核に伝わり，遺伝子発現を介して細胞の運命が決定される。西田教授は，生化学，分子生物学，細胞生物学のテクニックを駆使して，細胞膜から核へのシグナル伝達経路を解析，この経路を担う酵素，MAPキナーゼを同定した。そして，そのMAPキナーゼの活性化機構，作用機構の解析からタンパク質キナーゼの連鎖反応

(カスケード)の存在を見出し，MAPキナーゼ活性化の分子機構を明らかにした。ついで，MAPキナーゼの生理作用を解析し，MAPキナーゼによるタンパク質リン酸化が卵母細胞の成熟過程，胚発生における中胚葉の誘導や，動物の寿命の決定に関与していることを見いだした。

西田教授の卓越した業績に対し，これまでも平成13年度には日産科学賞，同14年度井上學術賞，同15年度大阪科学賞，同21年度上原賞，同22年度に紫綬褒章および武田医学賞が授与されている。

(大学院生命科学研究所)

北川 進 教授は，昭和49年京都大学工学部を卒業，同51年同大学大学院工学研究科修士課程を修了し，同博士課程に進学，同54年に京都大学工学博士の学位を授与された。昭和54年4月



近畿大学理工学部助手に採用され，同58年4月同講師，同63年4月同助教授，平成4年4月東京都立大学理学部教授を経て，同10年6月京都大学大学院工学研究科教授に就任，同19年10月からは物質-細胞統合システム拠点教授となり副拠点長を併任，同25年1月からは拠点長に就任し，現在に至っている。

今回の日本学士院賞の受賞題目は「多孔性金属錯体の創製と応用に関する研究」であり，北川教授は，金属イオンと有機分子の結合を利用することで，ナノメートルサイズの規則的な孔を無数に有する多孔性金属錯体材料の合成および機能の開発に関する研究を行った。多孔性金属錯体材料は，有機分子と無

機イオンの素子の設計と配位結合を制御するだけで簡便に合成でき，細孔の空間構造，形状，機能をナノレベルで自在に精密制御できる材料として認められている。北川教授は独自の多孔性構造の設計指針にもとづき，既存の多孔性材料の性能を凌駕する環境，エネルギー，バイオ課題にかかわる気体分子を低エネルギーで分離，貯蔵する多孔性金属錯体材料を発明した。この業績は無機・錯体化学はもとより，今日の諸問題(エネルギー，環境，生命)に対し，化学が解決するために取り組むべき新領域の開拓に貢献し，国際的に高く評価されている。

北川教授の卓越した業績に対し，これまでも平成20年フンボルト賞，同22年トムソン・ロイター引用栄誉賞，同23年紫綬褒章，同25年英国王立化学会ド・ジェンヌ賞など，多数の賞が授与されている。

(物質-細胞統合システム拠点)

河内良弘名誉教授は、昭和29年、京都大学文学部史学科東洋史学専攻を卒業、同34年、同大学院博士後期課程を単位取得退学された。昭和31年天理大学助手、同35年同大学講師、同43年同大学助教授、同48年同大学教授、同59年京都大学博士(文学)(学位論文は平成4年に『明代女真史の研究』として公刊)となられ、同60年京都大学文学部教授を経て平成4年に定年退官され、京都大学名誉教授の称号を授与された。後に天理大学教授、平成11年同大学退職、天理大学名誉教授の称号を授与された。



今回の学士院賞の研究題目は「満洲語辞典」、すなわち『満洲語辞典』(松香堂書店、平成26年)の編纂による受賞である。満洲人はマンチュリア(今日の中国東北部およびロシア領沿海州・アムール州)を原住地とするツングース系の民族である。17世紀に民族名を女真から満洲に改め、満洲文字を作成した。満洲語は満洲文字によって記述される言語である。清朝を建国した満洲人は、中国本土さらにはモンゴル・チベット・東トルキスタンを支配下に収めた。

満洲語は清朝の第一公用語で、官文書はまずは満洲語で記され、それから漢語に訳された。近年では「満文檔案」とよばれる満洲語の官文書が第一級の研究史料として使われるようになってきている。満洲語の辞典としては、羽田亨(京都帝国大学第12代総長)主編『満和辞典』(昭和12年)があったが、史料読解には不十分なものであった。河内名誉教授は、本田道夫香川大学経済学部教授の協力を得て満洲文字フォントと「満洲文字入力・編集・印刷システム」を開発し、用例の出典となる史料も、中国第一歴史檔案館において御自身で収集された。こうして二十数年の歳月をかけて完成したのが収録語彙数4万語の『満洲語辞典』である。語学の習得には辞典・文法書・読本が「三種の神器」とされるが、河内名誉教授は、『満洲語辞典』に先立ち、文法書として『満洲語文語文典』(平成8年。平成14年に『満洲語文語入門』として改訂)を主編、読本として『内國史院満文檔案訳註』(平成22年)を公刊されている。これら一連の業績は世界の満洲学さらには東洋史学の発展に寄与をする偉業といえる。

(大学院文学研究科)

## 話題

### 舞鶴水産実験所 海洋教育研究船「緑洋丸」のお披露目式を実施

3月10日(木)、フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所において、新しい海洋教育研究船「緑洋丸」のお披露目式を実施した。旧「緑洋丸」は平成2年に完成し、25年以上にわたり本実験所の教育研究活動を支えてきたが、近年は老朽化が進み、代船の建造が待ち望まれていた。平成27年末に機能性と安全性を高めた新「緑洋丸」が完成し、試験航海を経て学内外の方々にお披露目する運びとなった。

お披露目式には近隣する関係機関の方々をお招き

し、山極壽一 総長と清木孝悦 理事をはじめとする学内の関係者、舞鶴水産実験所の教職員など合計約50人が参加した。来賓者はまず、標本庫や飼育棟などの施設を見学し、新「緑洋丸」の航海機器や調査機器の説明を受けた。さらに、希望者は新「緑洋丸」に試乗し、環境観測や動物プランクトン採集、底生動物採集などのデモンストレーションを見学した。風が強まるときもあったが、雨が降ることはなく、試乗者は調査風景を興味深く観察していた。

式典では、吉岡崇仁 フィールド科学教育研究センター長が挨拶し、舞鶴市長からの祝電を披露した後、新「緑洋丸」を建造いただいた小南昭典 ニシエフ



集合写真

小浜工場長に感謝状を贈呈した。最後に、山下 洋 フィールド科学教育研究センター教授が閉会の辞を述べ、お披露目式が無事終了した。



緑洋丸の試乗

(フィールド科学教育研究センター)

## 学術情報メディアセンターの二つの計算機が「情報処理技術遺産」に認定

3月10日(木)、学術情報メディアセンターに係する二つの計算機が、一般社団法人情報処理学会の「情報処理技術遺産」に認定された。情報処理技術遺産は、我が国のコンピュータ技術発達史上の貴重な研究開発成果や国民生活・経済・社会・文化などに顕著な影響を与えたコンピュータ技術や製品が認定対象とされる。

今回認定されたKDC-1論理パッケージは、昭和35年に当時大学院生であった矢島脩三 名誉教授が中心となり日立製作所と共同で開発した、日本の大学における最初のトランジスタ計算機である。昭和36年1月に国内大学初の計算センターである「電子計算機室」が発足し、約15年間共同利用された。この情報処理教育の全学サービスの重要性は高く認識され、その後、情報処理教育センター、総合情報メディアセンター、学術情報メディアセンターと発展的に継承されている。

今回認定されたもう一つのTTL論理回路カード(FACOM 230-60搭載)は、昭和43年に富士通で開発され、マルチプロセッサシステムとして世界に先駆けICを全面採用したFACOM 230-60の構成部品である。その1号機は昭和44年の本学の大型計算機セ

ンター開設時に運用開始された。これは、大型計算機センターおよびその後の学術情報メディアセンターのスーパーコンピュータシステムの原点というべきシステムである。

KDC-1論理パッケージは、矢島教授が退官後に大学文書館に寄贈し、保管されていたが、このたびの技術遺産認定を受けて、学術情報メディアセンター北館3階の資料室で、FACOM 230-60のTTL論理回路カードなどとあわせて展示されることになった。



(左)KDC-1論理パッケージ

(右)FACOM 230-60搭載TTL論理回路カード

(学術情報メディアセンター)